「情報漏えい、当社に関係なし」の嘘（第5回）

複合機のデータが外部から「丸見え」

2017.02.01

情報セキュリティー対策の重要性が叫ばれる昨今、何らかの対策を講じるのはもはや常識だ。しかし、対策が必要なのはパソコンだけではない。例えばオフィスの一角に置かれたファクスやプリンターなどの機能を備える複合機も、場合によっては重大な情報漏えいを引き起こす原因になってしまうのだ。

複合機に残ったデータが外部から「丸見え」に

情報セキュリティー対策の目的は「情報漏えいを防ぐ」ことにある。その方法は各種あるが、基本的にはパソコン、サーバー、スマートフォンなどのいわゆる情報通信機器が対象だ。これらの機器はインターネットを通じて外部と通信するので、データが流出しないよう常に注意して対策を講じる必要がある。

ところで、オフィスには上記のほかにもさまざまな機器がある。例えばコピー機やファクス、プリンターといった装置も通信機能を持った情報機器だ。最近ではこれらを一体化した複合機が広く普及しており、多くの企業で活躍している。

この複合機が情報漏えいの原因となる事件が発生し、問題になったのをご存じだろうか。2013年、東京大学医科学研究所に設置された少なくとも2台の複合機で、個人情報がインターネット上で閲覧できる状態になっていたのが分かった。大学は直ちにアクセス制限などの対策を行ったが、日ごろから厳重に管理されていると思われていた教育機関で発生したことに加え、複合機という「盲点」を突かれた形が注目された。複合機の情報セキュリティー対策を指摘する声が高まっている。

対策の遅れが情報流出の被害を拡大… 続きを読む